

令和5年度
(2023年度)

学校関係者評価報告書

令和5年(2023年) 4月1日から
令和6年(2024年) 3月31日まで

令和6年(2024年)9月13日

学校法人吉田学園
専門学校北海道リハビリテーション大学校

■令和5年度 学校関係者評価について

〈説明〉

学校関係者評価委員会では「自己点検・評価」の結果について、学校関係者評価委員の皆様にも適切な評価をいただき、そのご意見・助言をもとに改善を図り学校の適正運営にあたるものです。特に学校基本情報公表及び自己点検・評価の結果報告を行ない、第三者の視点でその評価が適正であるかを審議いただくとともに、適切なお意見や助言を伺い教育課程・シラバスに反映する。

1. 実施日時

令和6年9月12日(木) 19:00～20:10

2. 実施場所

オンラインによる開催

3. 実施方法

(1)実施組織:学校関係者評価委員会

○外部評価委員:

丹野 拓史	医療法人社団明生会 イムス札幌内科リハビリテーション病院 リハビリテーション科作業療法課 課長	(業界関係者)
源間 隆雄	医療法人札幌麻生脳神経外科病院 リハビリテーション科 技師長	(業界関係者)
岸上 博俊	日本医療大学リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授	(有識者)
佐々木智教	社会福祉法人北翔会 医療福祉センター札幌あゆみの園 地域支援部 地域支援課 課長	(2012年度 理学療法学科卒業生)
鵜飼 渉	札幌医科大学医学部 神経精神医学講座 准教授	(保護者)

○学校関係者:

柿崎 貴浩	専門学校北海道リハビリテーション大学校 副校長
北風 祐子	専門学校北海道リハビリテーション大学校 言語聴覚学科学科長

(2)評価基準:文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠しています。

(3)評価方法:令和5年度学校運営・教育活動実績報告書に対する学校関係者評価。

4. 評価項目

次の11項目について実施

- (1)教育理念・目標
- (2)学校運営
- (3)教育活動
- (4)学修成果
- (5)学生支援
- (6)教育環境
- (7)学生の受け入れ募集
- (8)財務
- (9)法令等の遵守
- (10)社会貢献・地域貢献

(11) 国際交流

5. 評価項目に対する評価

(1) 4段階で点数評価しました。

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

(2) 委員会で提出された意見や質疑、提案事項を記載

① 項目4 学修成果(4) - 2 「資格取得率の向上が図られているか」

《委員からの質問・意見等》

- ① 「STの国家試験合格率が低い理由は何か」「全国の平均合格率も例年80%未満なのか」
- ② ・「所属している大学では一昨年の合格率が低かったため、卒業試験の改革を始めた。具体的には、学生がより早期に国家試験対策を取り組むために、卒業試験の回数を増やした。それまでは秋に1回の実施であったが、春と秋2回に変更した。実施回数を2回にすると試験問題の準備負担も大きくなるため、春は業者模試を使用し、秋は試験の内容を、過去問から出題をするようにした。学生が国家試験対策の勉強をしたいときに、それとは別に卒業試験対策をしなければならず、学生側から試験内容の統一化を求める意見が見られたため、内容についても検討を行った。今年度の春は合格率が上がったため、引き続きこの方式で行ってみることとなった。またピアティーチングの取り組みも大事と考える。」
- ・「所属している大学では卒業試験が形骸化している部分もあった。文科省としては国家試験に紐づける形ではないものを求めている。十分に学習が修得できていないまま卒業試験に合格してしまうと、いつまでも国家試験に合格できないという状況にもなる。開学以来まだ合格できずにいる卒業生がいる。今年度からは卒業試験の本来の意味を持たせられるように行う。専門職にはならず、一般企業へ就職をする学生については、卒業はするものの国家試験を受験しない者もいる。」
- ・「STの場合、国家試験の問題の質のこともあるが、STになりたいというモチベーションが低い状態のまま国家試験を受験することもある。入学後、早い段階から臨床像を持つことで国家試験へ向き合うためのモチベーションを高められ、目標を明確に持てるようにすると良いのではないか。」
- ③ ・「当院では卒業試験不合格の影響を受け、内定していた2名が不採用となった。臨床現場としては非常に厳しい状況と感じる。当院のSTスタッフからは、STの国家試験問題の難易度は高いという意見が出ており、卒業試験である程度ふりにかかるとは仕方ない面もあると感じた。」
- ・「学生募集にも影響するので、対策をしっかりしたほうが良い。」
- ・「どの様に意欲を起こさせるが問題。医師の場合、卒業学年の2年前に国家試験があり、それが最終の国家試験の成績にリンクしている(2年前の段階で成績が悪い学生は最終国家試験でも結果が悪い)。それがわかってもなかなか伸びない学生がいる。今は1年生のうちから対応することに力を入れている。グループに分かれて臨床的なシナリオを作り、それに基づいて話し合うなど、どの様な仕事をするのかということもわかっただけで機会を創出している。モチベーションを高めるような取り組みにしている。」
- ④ 「チュートリアルと言う授業を実施している。1年生を1グループ9~10名のグループに編成し、チューターの教員をひとり配置している。3回連続の授業で、臨床のシナリオを作り、話し合う。毎回、自らの意見を発言することで、学びがあると感じる学生が多い(そういう意見が多かった)。発言の機会があるということは意味がある。教員の負担があり、コミュニケーションを図ることが苦手とする先生もいて、積極的ではない先生も中にはいることも事実。」
- ⑤ 「退学率、ストレート卒業、国家試験合格率がこれからは厳しくなるだろうという情報

がある。文科省がそのデータの開示を要求してきている。道内に定期試験を廃止した大学があるという情報もある。」

《学校からの回答》

- ① 「一部の医師からは、重箱の隅をつつくような出題が多いという意見をいただいている。一方で100%の合格率を出している養成校もあるため、教員の指導の方法にも課題があると捉えている。追い込みが必要な時期に、十分な取り組みができていなかったと分析している。例年、全国为国家試験合格率が80%前後で推移している。本校の結果が80%には全く届かない結果となった。」
- ② 「PTとOTについてはこれまで卒業試験を3回(5・12・1月)実施していた。5月は専門基礎科目(解剖学、運動学、生理学)とし、2回目は教員作成問題、3回目は業者模試を使用していた。再試験日から国家試験日までの期間が短く学生への負担が大きいこと、業者模試の難易度が適切ではないことから、今年度は2回(6・1月)実施へと変更することとなった。STについては、3年間で国家試験合格まで習熟度を上げる難しさはあるが、他の3年制でも高い合格実績を出している養成校はあるため、その取り組み方について参考にする必要があると考えている。」
- ③ 「困難の予想される職業ではあるが、今以上に職業的な魅力を伝えることでモチベーションを高めることが大切であると考えている。卒業試験の在り方も検討が必要という事で受けとめました。所属している大学における取組みは具体的にはどのような形で進められているのでしょうか？」
- ④ 「参考にさせていただきます。ありがとうございます。」
- ⑤ 「4年間では難しいが、5年6年という時間をかけることで卒業、国家資格取得が可能となる学生もいる一方で、ストレートでの卒業率を求められると非常に厳しいと感じる。記憶定着を図るアプリの導入も始めるなど、様々な工夫をしながら教育力を高めることが必要と感じている。
「本日は様々なご意見をいただき、誠にありがとうございます。いただいたご意見を学内に持ち帰り、十分に検討を重ねながら、少しでもよりよい改善に向けて取り組んでいきたい。」

6. その他

(1) 以下、令和5年度(2023年度) 学校自己点検・評価を併せてご覧ください。

項目1 教育理念・目標

- 自己点検・評価結果 4.0 (適切)
- コメント : 特に課題はない

項目2 学校運営

- 自己点検・評価結果 3.9 (ほぼ適切)
- コメント : (2) - 8について

校務システム、学習管理システムが導入されたばかりであり、安定した運用までには一定の時間を要すると考えられる。一層の業務の効率化が実現できるよう、学校現場の実態や意見等を管理担当部署へ積極的に伝えるなどして、運用の適正化を進めていく。また活用事例と効果・実績を具体的に知ること、活用に向けたハードルは低くなると考えられる。作業療法学科においては、トライアル使用を継続してきた臨床実習支援システムを2023年度から正式導入となった。本校の臨床実習に完全対応とはならない部分もあるが、徐々に改善が図られている。より使いやすいツールになるよう引き続き開発元に要望を上げてゆく。

項目3 教育活動

■自己点検・評価結果 4.0 (適切)

■コメント : 特に課題はなかった

項目4 学修成果

■自己点検・評価結果 3.2 (ほぼ適切)

■コメント : (4) - 2について

理学療法学科では、模擬試験における低得点者への個別指導を重点的に取り組むとともに、グループ学習を積極的に活用し、学生同士が互いに協力しながら学び合うピアティーチングに取り組むことで、難関試験へ果敢に挑戦する強い気持ちの醸成と、切磋琢磨する中においても、個々の学生が自信を持てる環境づくりを進める。

作業療法学科においては、現役生の合格率維持のために、グループ学習をベースとしつつ、低得点が継続する等の要対応学生を早期に把握し、学習指導や個別対応等で底上げを図っていく。既卒生については、受験意思を確認の上、改めて学習計画を立て、継続的な個別対応を行う。

言語聴覚学科においては、2023年度の結果が非常に悪かったため、改めて今年度の取り組み内容についての分析を徹底的に行い、十分な対策を立てる。さらには他学科、他校の国家試験対策状況について情報収集を行い、取り組みの方針・方策について学科内で共有する。早期から国家試験合格への意識付けを行い、継続して取り組めるようにする。既卒生に対しては、集中して学習に取り組める環境を提供し、個々の状況に合わせた個別学習指導を徹底して行う。

■コメント : (4) - 3について

3学科ともに共通して、職業理解の乏しさ、動機の希薄さを背景に持つ入学者は増えつつある。さらに学習習慣の乏しさや学習耐性の低さが加わることで、修学へのモチベーションを高めることが難しくなるが、職種の魅力ややりがいを継続的に伝え続けなければならないと考えられる。またクラス内の人間関係も影響しやすいことから、各担任のクラス運営を通じてクラスの良い雰囲気作りを図る。成績不良に伴う退学者の減少は、可及的速やかに取り組む課題となっている。学力不足者に対する早期からの対応、学習指導、学習支援、個別対応を丁寧に行うことで、対象学生のモチベーション低下を防ぎながら、成績の向上を目指す方策を、担任だけではなく、各学科全体で取り組む必要がある。

特に入学後の学習支援は重要であると考えられ、朝課題や補習の提供、形成的評価やアクティブ・ラーニングの実施、効果的なICT教育の活用を含めた教育力の向上に、今後も努めていかなければならない。

項目5 学生支援

■自己点検・評価結果 4.0 (適切)

■コメント : 特に課題はなかった

項目6 教育環境

■自己点検・評価結果 4.0 (適切)

■コメント : 特に課題はなかった

項目7 学生の受入れ募集

■自己点検・評価結果 4.0 (適切)

■コメント : 特に課題はなかった

項目8 財務

■自己点検・評価結果 4.0 (適切)

■コメント : 特に課題はなかった

項目9 法令等の遵守

■自己点検・評価結果 4.0 (適切)

■コメント : 特に課題はなかった

項目10 社会貢献・地域貢献

■自己点検・評価結果 4.0 (適切)

■コメント : 特に課題はなかった

項目11 国際交流

■自己点検・評価結果 —

■コメント : *現在、受入れ実績なし

以上

記録: 柿崎貴浩